



■ H23(2011)年3月3日

鶴見川流域総合治水対策30周年記念シンポジウム開催報告

【視察日】平成23年2月20日（日）

平成23年2月20日（日）12時00分より、慶應義塾大学日吉キャンパスの協生館にて、「鶴見川流域総合治水対策30周年記念シンポジウム」が開催され、一般参加者及び関係者を含め、約470名もの方が参加されました。

第1部では、水害体験者や水防活動経験者から貴重な水害の体験談を聞くことができ、鶴見川流域水協議会を代表して京浜河川事務所より、総合治水対策の30年の歴史、対策の経緯及び成果について説明がされました。

第2部は、横浜市の鶴見区長、港北区長、川崎市の幸区長、京浜河川事務所長らによる討論会が行われ、今までの総合治水対策による効果及び現在の水辺の利活用について、そして、今後のゲリラ豪雨や地球温暖化により発生し得る豪雨に対する取り組みを聞くことができました。

また、会場のエントランスホール周辺において、流域自治体によるこれまでの総合治水対策についてのポスターセッションが行われました。

この成果を、総合治水を多自然、多機能化させ、平成16年8月より取り組みをはじめた「鶴見川流域水マスタープラン」の推進に、流域単位で、様々な場面で生かしていきます。



昭和41年台風4号による氾濫被害（鶴見上末吉）



ポスターセッション



これまでの総合治水の説明



会場のようす

【開催報告は文末をご覧ください】

『鶴見川流域総合治水対策

30周年記念シンポジウム』開催報告

平成23年2月20日（日）12：00より、慶應義塾大学日吉キャンパスの協生館にて、「鶴見川流域総合治水対策30周年記念シンポジウム」が開催され、一般参加者及び関係者を含め、約470名もの方が参加されました。

第1部では、水害体験者や水防活動経験者から貴重な水害の体験談を聞くことができ、鶴見川流域水協議会を代表して京浜河川事務所より、総合治水対策の30年の歴史、対策の経緯及び成果について説明がされました。

第2部は、横浜市の鶴見区長、港北区長、川崎市の幸区長、京浜河川事務所長らによる討論会が行われ、今までの総合治水対策による効果及び現在の水辺の利活用について、そして、今後のゲリラ豪雨や地球温暖化により発生し得る豪雨に対する取り組みを聞くことができました。

また、会場のエントランスホール周辺において、流域自治体によるこれまでの総合治水対策についてのポスターセッションが行われました。

この成果を、総合治水を多自然、多機能化させ、平成16年8月より取り組みをはじめた「鶴見川流域水マスタープラン」の推進に、流域単位で、様々な場面で生かしていきます。

背景：鶴見川源流保水の森（町田市上山田町）

